

》トピックス 胸部デジタルX線 検診車のカンボジアへの寄贈式典とその背景

WHOの推計によれば、カンボジア国の全結核有病率（病気を持っている人の率）は、現在、人口10万対764人で、結核高まん延22か国の中では、南アフリカ857人に次いで2番目に結核の多い国とされています。これは、度重なる内戦、とりわけ多くの医師をはじめとする知識階層が虐殺されたポルポト時代の負の遺産と考えられており、ポルポト時代の集団生活で結核の感染は国民に広く蔓延し、その治療もほとんどできなかったためとされています。

結核予防会当会はこれまで、広く末端のヘルスセンターで結核診断治療ができる体制を1999年～2004年にかけて作り上げ（JICA国家結核対策プロジェクト）、2005年からは子供の結核や、HIV重複感染結核の診断のための胸部X線検査と診断の精度管理等に貢献し（フェーズ2プロジェクト）、2009年～2012年にかけては第2回の全国有病率調査を実施しました。

この第2回調査は2002年の第1回調査と比較しての結核対策の効果と課題を明らかにすることができ、世界的にも高い評価を受けることになりましたが、同時に、新たな課題として、より積極的な患者の早期発見、胸部X線検査を用いた結核検診が必要で、軽症の段階から結核患者の診断治療をどう進めていくべきかという問題を浮上させました。

こうした背景のもとに、結核予防会は昨年、カンボジア結核予防会（CATA）へ検診車を寄贈し、「日本の経験を生かした積極的な結核患者の早期発見（結核検診）」をカンボジアで普及する第1歩を刻むことといたしました。お蔭さまでこの検診車は早速カンボジアにて活動し、成果を積み上げつつあります。具体的には、検診車が始動した2013年8月以降、工場の労働者などを中心に約3か月の間に6,473人、活動日には1日平均100名近い検診を実施することができているからです。

この検診車は長野県支部からの提供を受け、アナログ（フィルム）式胸部X線撮影装置をデジタル方式に改装し、画像読取装置、パソコン等一式を附しました。この改装に当たっては、（株）カイト様の紹介により（株）マルハン様からの貴重な寄附金を活用させていただき、輸送に当たっては認定NPO法人サイド・バイ・サイド・インターナショナル様の仲介で（株）商船三井様の協力を得ることができました。

* *

2013年11月28日、カンボジアの首都プノンペンにある国立結核センター（CENAT）において、この検診車の寄贈式が盛大に執り行われました。式典には、CATAの理事長でもあるカンボジア国の保健大臣（医師）、JICAカンボジア事務所長、WHOカンボジア事務所代表、カン

ボジア日本人商工会長、プノンペンに所在するマルハンジャパン銀行副頭取、認定NPO法人サイド・バイ・サイド・インターナショナル事務局長、CENAT 所長（医師）及びカンボジア結核予防婦人会の方々など現地から多数のご列席を得ました。そして日本からは、当会スタッフとともに（株）カイトー社長、日程を合わせてカンボジアのスタディツアーに参加していた結核予防婦人会役員が出席いたしました。

式典の最後に、マム・ブンヘン保健大臣から「結核対策において、日本はカンボジアにおける主要なパートナーの一つです。本日の式典は、日本の支援や寄付を表す一つの象徴であることを強調したいと思います。この10年間でカンボジアにおける結核有病率と死亡率は劇的に減少し、2011年までに結核有病率と死亡率に関するMDGsの目標（国連の援助政策ミレニアム開発目標）を達成することができました。1990年から2011年までに結核の死亡率を60%に減らすことができ、2015年までに50%とするMDGsの目標に対し、結核有病率は51%に減らすことができました。このことは4年前倒しで目標を達成したことを意味します。」と丁寧な謝辞をいただきました。

そして、この式典の様子は、取材に来られたカンボジアの新聞やテレビ各数社によって、写真入りで翌日の紙面やニュースとして取り上げられました。

式典の様子は次のニュース映像から、ご覧いただけます。

【BAYON TV】

<http://youtu.be/AF9KvcrJV94>

【CNC TV】

<http://youtu.be/D4fsji5RiCc>

【NATIONAL TV】

<http://youtu.be/KuKAiOH0w08>